

The Portraite of Mr.O

Portrait of Mr.O

Portrait of Mr.O

O氏の肖像

監督・撮影 長野千秋 出演 大野一雄

1969年／日本／65分

協力 | 大野一雄舞踏研究所、NPO法人ダンスアーカイヴ構想



VICTORY
THEATER

VICTORY THEATER.

毎年ビクトリでは「映画を聴こう」という企画をしていました。今年は「踊る」映画特集です。

まず最初は暗黒舞踏の源流ともいえる、日本を代表する舞踏家・大野一雄出演の『O氏の肖像』を上映します。本作は1965年にドキュメンタリー映像作家・長野千秋と大野が製作した、16ミリ映画3部作の1作目です。大野一雄舞踏研究所（現・NPO法人ダンスアーカイヴ構想）により、2000年以降にデジタル化されました。

ひじかた たつみ

暗黒舞踏とは、1950年代末から1960年代にかけて、舞踏家の土方巽や大野一雄らが中心となって始めた、前衛的なダンスです。欧米では「Butoh」として、近年広く知られるようになりました。

西洋の踊りとしてのバレエが天に向かう表現としたら、暗黒舞踏は土へと大地

へと向かう踊りといえます。それゆえに「舞踊」ではなく「舞踏」、踏むと書くのですね。暗黒というのも、アンダーグラウンドが沸いた時代的背景もありながら、そのまま地中と捉えることもできます。

私は暗黒舞踏を初めて見た時、非常に胸がざわつくものがありました。そのざわつきを自分なりに後から掘り下げてみると、本能的で理性を超えた（ように見える）人の動きに、みてはいけないものを見た気がし、本能的に動く人間の姿にまず恐怖心をおぼえたのでした。しかしそれと同時に自分はその本能的な感覚をどこかに置いてきてしまった、と目が醒める思いがしました。

「踊り」は「生きる」ことに直に触れることがあるように思います。そんなことを感じたいいくつかの映画を、この企画で特集してみたいと思っています。

（支配人）

O氏の肖像

ドキュメンタリー映像作家長野千秋と大野一雄が製作した16ミリ映画三作品の第一作。

「O氏」とは大野一雄のこと。横浜の自宅周辺、当時大野一雄が勤めていた捜真女学校のボイラー室、猿島（東京湾の無人島）や宝生寺（横浜市）を舞台に1年ほど撮りためた映像をまとめた作品である。

長野は撮影も担当し、その回想によれば「踊りの相手としてのカメラ、という立場で、私も動きながら。自分では踊るつもりで大野さんと対応したいと」の想いに動かされての制作だった（長野千秋インタビューより）。

大野一雄は1960年代に土方作品の多くに参加したが、1968年高井富子公演＜まんだら屋敷＞に客演して以降は舞台活動を休止し、長野監督との映画製作に没頭した。長野は＜まんだら屋敷＞の舞台監督を務めていた。映画公開に伴い、「大野一雄を肖像した長野千秋展」と題されたプログラムが百部限定で制作されている。エディションも入れられており美術的な作品として見ることができる。土方巽、湊澤龍彦、中西夏之等が寄稿している。



2026.9.21 mon 15:00 start 上映 + アフタートーク

平井 優子（ダンサー、振付演出家）× 菅野 優香（クイア・スタディーズ研究者）

「大野一雄という存在をめぐって」

9.24 sun 19:00 start 上映のみ

一般（前売り）1,200円、（当日）1,500円 / 高校生以下 1,000円 / 小学生500円

